

『満蒙開拓』に学ぶ
～ 満蒙開拓平和記念館 三沢亜紀さん聞き取り ～

城北中学校 宮田伸也

1. はじめに

今回のレポートは、満蒙開拓に関わる授業づくりの素材研究として、満蒙開拓平和記念館事務局長の三沢亜紀さんからお聞きした内容から、授業に直接生かせそうな部分の抜粋である。今後の授業づくりの参考になれば幸いである。

2. 聞き取り調査から

(平成30年 8月 実施)

1. 満蒙開拓全般に関して

(1) 国策としての満蒙開拓に関して

①最大の目的とその背景は何か。

- ・国内の経済対策に加えて、対外的な満州国の防衛（大東亜共栄圏の確立・お国のため）、実効支配という意味合いが強い。（食糧増産という目的もあった。）
- ・経済的要因+軍事的要因。開拓団の移住した地を見れば、その目的は明らか。

②満州に渡った日本人の総数と、そのうち無事帰還した人数・亡くなった方の人数・現地の生活を選んだ人数はおおよそどれくらいか。

- ・満蒙開拓団は22万人（義勇軍を含めれば27万人）だが、一般も含めればのべ155万人が満州の地にわたった。（詳しい資料は割愛）

③満州における日本人と中国人の交流（関わり）はどのようなものであったのか。

A) 戦中（日本の植民地支配が続く中で）

- ・一等国民（日本人）、二等国民（朝鮮人）、三等国民（中国人）という認識。
- ・「中国人を強制的に移住させ（土地を安く売り渡させ）、現地の人を使用人・小作とする」という負の関わりと同時に、人間的な交流も見られる。

B) 敗戦後（逃避行の中で）

- ・開拓団は特に大変な思いをした人が多かったが、企業などで働いていたものは、住居もあったりして、そこそこの生活をしていたケースもある。

④「満蒙開拓」に反対した人たちはいたのか。いたとすれば、それは「どのような人たちで」「どんな理由で反対し」「その結果どうなったのか」

- ・積極的に反対したものはいない（すれば治安維持法に触れる。「非国民」というレッテルが貼られる←この要因は大きかったようである）が、村長など、移民に消極的な姿勢をとった人たちはいる。
- ・移民に消極的な理由は、基本的に「満州は治安が悪い」という認識があったこともある。
- ・分村という形の移民もあったが、反対意見があったり、経済的な理由で分村できない場合もあり、数としては少ない。

⑤満蒙開拓に行って「よかった」と考えている人はいるのか。そしてその資料はあるか。

- ・トータルで考えれば、「よかった」とは言えないと思うが、中国人との温かい交流もあることは事実。
- ・「オーラルヒストリー」という考え方があって、その人の人生全てを聞く中で学んでいく歴史が注目されている。「かわいそうだね」だけで終わらせず（マイナス面だけクローズアップせず）、戦争の中でも人間的な関わりがあったことなど、トータルで見えていくことが大切。

⑥当時の時代背景に身を置けば、「満蒙開拓」は日本にとって必要な政策であったのか。また、現在の視点から見た場合、「満蒙開拓」は必要な政策と言えるのか。

- ・当時に身を置けば、止められなかった。この他の政策はなかったとする専門家の見方もある。
- ・しかし、①他の方法は無かったのか ②様々な背景を知った上で、満蒙開拓は是か非か ③中国人から見た満蒙開拓はどのようなものだったのか などの視点から考えることも重要。

(2) 長野県民の満州への移民について

- ①長野県から移民した総数と、そのうち無事帰還した人数・亡くなった方の人数・現地の生活を選んだ人数はおおよそどれくらいか。
 - ・全国からの移民総数27万人のうち、長野県からは3万3千人が移民。うち、半数近い犠牲者を出した。(詳しい資料は割愛)
- ②長野県から、最も多くの移民が行われた背景は何か。
 - ・貧困に加え、教育会の動きもある。
 - ・長野県民の積極的な思想に加えて、恐慌への対策としての経済更正運動との関係で、長野県が国の重点地域となったことも一因。

2. 青少年義勇軍について

(1) なぜ、少年達を移民させようとしたのか。

- ・軍事目的が大きい。日本人をその地に若いときから定着させる＝満州の将来の担い手にするということ。
- ・農家の次男・三男にとっては、経済基盤になり得るのが満州の地。

(2) 少年達を満州に送り出す側の働きかけはどのようなものであったのか。(国・村・学校・家族)

- ・教育会の動き (海外発展思想・かつて長野県でおきた社会主義事件に対しての汚名挽回)
- ・満蒙開拓は進路指導の一つであった。(おおざっぱに言えば、海軍予科練(成績優秀者)→陸軍→青少年義勇軍というような位置づけ。)
- ・長野県から市町村ごとに義勇軍の割り当てのノルマが決められていた。

(3) 移民を決意した少年達に共通する背景や、目的や、思いはあるのだろうか。

- ・満蒙開拓に参加すれば、「農作業＋勉強＋軍事訓練」ができるという思い。
- ・教育により「お国のために」という基盤が定着している。
- ・「満州で一花咲かせたい」「地主→小作の厳しい関係から逃れたい」という夢もある。(満州での豊かな生活が、小作農家の次男・三男坊の夢となるケースも。)
- ・自主的に行った者もいたであろうが、強制力もかなり大きかった。

(4) 移民を拒んだ少年達に関する資料はあるか。

- ・表だって反対はできない(非国民という言葉は怖い)。※当時に身を置けば、反対できない。
- ・反対しようにも、政治的なことは言えない。感情的な理由(寂しい・不安・・・)、健康上の理由、家庭事情などが、拒む理由にはなり得ると思われる。
- ・資料とすれば、最終的には義勇軍に参加しているが、大いに悩んだ記録は残されている。

3. 長野県日中友好協会について、長野県日中友好協会の設立の経緯と満蒙開拓のつながりはあるか。

- ・満蒙開拓と直接のつながりがあるとは言えぬが、日本が中国に対して行った加害の側面と向き合った結果、中国人への謝罪という目的が大きい。
- ・残留孤児への支援も行う。

4. 満蒙開拓とそれに関わる一連のできごとを、今後、どのような形で生かしていけばいいのか。

- ・「かわいそうだ」で終わらせない(被害だけに注目しない)。
- ・加害者としての側面としっかり向き合い、それを今に生かすこと。
- ・ドイツはかつてユダヤ人への迫害を行った反省を、現在の移民政策に生かしている(幅広く移民を受け入れる)。日本も歴史をどのように生かすかを考えたい。

3. まとめ

- ◎長野県は満蒙開拓において全国一の送出数であるという事実をふまえて、今後も素材研究を蓄積し、教材化の努力を続けて行く必要がある。
- ◎今後は昨年にドラマ化され、近年注目を集めている飯山市出身の丸山邦雄さんの教材化にも力を入れることが考えられる。
- ◎また、今後も満蒙開拓平和記念館との協力体制や、日中友好協会との連携を図っていくことが有効であると考えられる。